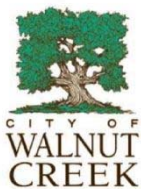


2019 北区青少年交流団

ウォルナットクリーク市派遣報告



令和元年8月2日～12日



東京都北区

目 次

1 交流団の派遣の趣旨・目的	P 1
2 事前の研修会	P 2
3 交流団名簿	P 4
4 ホストファミリー名簿	P 5
5 交流活動の概要.....	P 6
交流団員報告書	P 15

本報告書の作成に当たって使用した写真は、
北区が記録用として撮影した写真及び交流団
員が撮影した写真を使用しました。

1 交流団の派遣の趣旨・目的

北区とウォルナットクリーク市は、同市内の私立学校セブンヒルズスクールとの「区立中学生海外交流事業」を実施し、長年にわたり相互に訪問交流を行ってきました。

この両自治体の交流をさらに発展させるため、平成29年4月25日に「パートナーシティ協定」を締結し、文化、教育をはじめ、幅広い分野の交流を通じ、相互理解と連携をさらに深めていくこととしました。

これを受けて、令和元年（2019年）8月2日（金）～12日（月）までの11日間、区内在住の高校生11名を同市へ派遣し、異文化への理解と国際的視野を持った人材を育成するとともに、英会話能力の習熟を図り、北区や日本の良さを伝え、友好親善の礎となることを目的とした「青少年交流事業」を実施することとなりました。



平成29年4月25日調印式（花川区長とウエデル市長）

2 事前説明・研修会

- 第1回説明会

日時 5月25日(土) 13:30~14:30
会場 中央公園文化センター 学習室
内容 交流団参加者紹介、ウォルナットクリーク市との交流経過について
派遣日程の概要、今後の手続き・注意事項

- 第1回英語研修会

日時 5月25日(土) 15:00~17:00
会場 中央公園文化センター 学習室
内容 英語でのプレゼンテーション準備(プレゼンテーションとは)

- 第2回英語研修会

日時 6月8日(土) 14:00~16:00
会場 中央公園文化センター 学習室
内容 英語でのプレゼンテーション準備(北区の紹介)

- 第3回英語研修会

日時 6月22日(土) 14:00~16:00
会場 中央公園文化センター 学習室
内容 英語でのプレゼンテーション練習



• 結団式

日時 7月20日(土) 13:30~14:00

会場 中央公園文化センター 学習室



• 第2回説明会

日時 7月20日(土) 14:00~14:45

会場 中央公園文化センター 学習室

内容 渡航書類配布・説明、派遣にあたっての諸注意

• 第4回英語研修会

日時 7月20日(土) 15:00~17:00

会場 中央公園文化センター 学習室

内容 英語でのプレゼンテーションのまとめ



3 交流団員

(敬称略)

氏名		学年
安藤 理桜子	Risako Ando	高1
岩城 百華	Moka Iwaki	高1
岩田 美穂	Miho Iwata	高1
金井 僚諒	Tomoyoshi Kanai	高1
酒井 沙菜	Sana Sakai	高1
櫻井 莉子	Riko Sakurai	高2
鈴木 櫻子	Sakurako Suzuki	高2
田中 美愛	Minori Tanaka	高1
戸塚 礼理	Ayari Totsuka	高1
宮澤 さくら	Sakura Miyazawa	高2
森 菜々花	Nanaha Mori	高2

4 ホストファミリー名簿

派遣団員	ホストファミリー
安藤 理桜子	Taylor
岩城 百華	Picksly
岩田 美穂	Lai
金井 僚諒	Coke
酒井 沙菜	Currie
櫻井 莉子	Currie
鈴木 櫻子	Maureen
田中 美愛	Satterfield
戸塚 礼理	Lopez
宮澤 さくら	Satterfield
森 菜々花	Sanregret

5 交流の概要（※は現地時間）

8/2 出国日

14:30 成田空港集合

17:00 サンフランシスコ国際空港へ出発！



成田空港

※10:50 サンフランシスコ国際空港着
入国手続き後、空港よりバスにて市内視察&ランチタイム



フィッシャーマンズワフ

※16:00 ホテル着



8/3 ホストファミリーとの対面式

※10:45 ホストファミリーとの対面

少し緊張していましたが、迎えに来てくれたホストファミリーと積極的にコミュニケーションをとっていました。



8/5～9 ウォルナットクリーク市が運営するワークショップへの参加

※12:00～16:00

市が派遣生に用意してくれた2種類のワークショップに2グループに分かれて参加しました。

①フォトグラフィー

8月5日	月	ワークショップ(1日目) <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (北区プレゼンテーション、日米学生パートナー決め) ・カメラの基本構造、操作を学ぶ→撮影 ・写真の批評
8月6日	火	ワークショップ(2日目) <ul style="list-style-type: none"> ・撮影：サンフランシスコダウンタウンにて (Field Trip) *サンフランシスコ近代美術館 (SFMOMA) 訪問
8月7日	水	ワークショップ(3日目) <ul style="list-style-type: none"> ・ペア/グループ別のプロジェクトのアイデアを出し合う ・撮影：Ruth Bancroft Garden (Field Trip)
8月8日	木	ワークショップ(4日目) <ul style="list-style-type: none"> ・編集方法を学ぶ→編集をする ・ペアで編集作業をする ・お互いの写真を共有/批評する ・写真プロジェクト (Mail Art Project) を開始する
8月9日	金	ワークショップ(5日目) <ul style="list-style-type: none"> ・写真プロジェクト (Mail Art Project) の仕上げをする ・プロジェクト成果発表の準備 フェアウェル パーティー (ワークショップの成果発表を含む)



② アート

8月5日	月	<p>ワークショップ(1日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (北区プレゼンテーション、日米学生パートナー決め) ・絵の描き方、塗り方の基礎を学ぶ ・絵の批評 ・スケッチブックをもとにスケッチブックプロジェクト (Sketchbook Project) のアイデアを出し合う
8月6日	火	<p>ワークショップ(2日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンフランシスコダウンタウンにて (Field Trip) *サンフランシスコ近代美術館 (SFMOMA) 訪問 ・様々なアートに触れる。
8月7日	水	<p>ワークショップ(3日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自ペイントをする ・1枚の紙面にグループでペイントをする ・互いのペイントの共有/批評する
8月8日	木	<p>ワークショップ(4日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペイントの仕上げをする ・共同プロジェクトの趣旨の説明を受ける ・プロジェクトを開始する
8月9日	金	<p>ワークショップ(5日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの仕上げをする ・プロジェクト成果発表の準備 <p>フェアウェル パーティー (ワークショップの成果発表を含む)</p>



8/6 ウォルナットクリーク市庁舎等訪問 & Field Trip

※10:00~11:00 市庁舎訪問 警察署見学



※13:00~16:00 Field Trip (サンフランシスコダウンタウン)



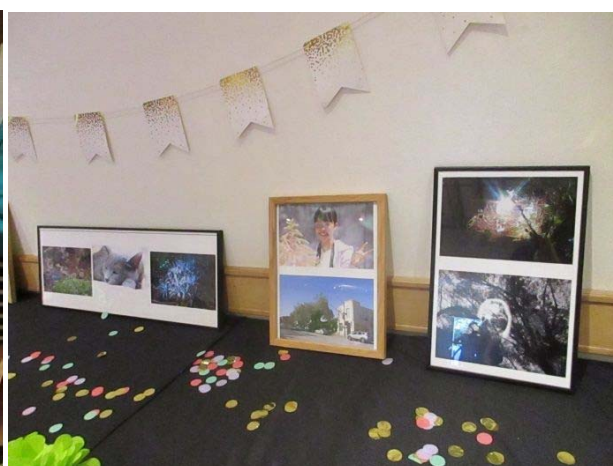
8/9 フェアウェル パーティー

※16:30 Prep for party

派遣生、スタッフ全員で会場設営&飾り付けを行いました。



ワークショップで作成した作品



※17:00 Party begins!

派遣生は会場内を巡り、ワークショップの成果を報告するなど
続々と来場するホストファミリーをお出迎え。



Student presentations !

いよいよプレゼンテーション！研修の成果が試されます。



自身のプレゼンテーションのパートを終えても互いの発表に熱心に耳を傾ける派遣生。



多くの聴衆と会場の大きさにとまどっていた派遣生たちも北区の魅力を表現力豊かに伝え、プレゼンテーションは大成功！！やり遂げた達成感からか、思わずバンザイ！

8/11 帰国日

※7:30 多くのホストファミリーが見送りに。感謝の気持ちを伝え、目を潤ませる派遣生たちに、ホストファミリーのみなさんも別れを惜しみ、何度も再会を約束する言葉を交わしていました。離れがたい気持ちを抑え、最後は笑顔で。



Let's meet again !



交 流 団 員 報 告 書

安藤 理桜子

岩城 百華

岩田 美穂

金井 僚諒

酒井 沙菜

櫻井 莉子

鈴木 櫻子

田中 美愛

戸塚 礼理

宮澤 さくら

森 菜々花

※団員から提出された感想文を原文のまま掲載しています。

「ホストファミリーの紹介」

私は Tayler 家にお世話になりました。Tayler 家には、Nic と Silla 夫妻と娘の Ilana, Skye 姉妹、さらには飼っている 17 匹の動物たちがいます。Nic はカセットテープやレコードなどを扱うショップのオーナーをしていて、家は常に音楽であふれていました。Silla は料理がとても得意です。家庭菜園では畑とも言えると思うくらい、たくさんの野菜を育てています。その中でも今年はズッキーニが豊作でたくさんのズッキーニ料理を作ってくれました。朝ごはんには、ズッキーニブレッドや Nic 特製のベーコンエッグなどが並びます。この卵は飼っている鶏が産んだものでとても新鮮です。この鶏のおかげで普段は卵を買う必要がないそうです。姉妹は韓国の防弾少年団が好きで韓国語や日本語も少しわかると言って、知っている文章を教えてくださいました。2 人はそれぞれ自分たちでもペットを飼っていて、Skye は 2 匹の蛇を Ilana はチンチウを飼っています。さらに家族では 3 匹の犬、1 匹の猫を飼っています。動物たちとたくさんの音楽に囲まれた Tayler 家こそ私の第二のホームです。

報告書「たくさんの出会い」

この 11 日間たくさんの人に出会いました。ホストファミリーはもちろん photography camp に参加している友達、先生などです。言語、文化、宗教など相違点はたくさんあります。それでも、私の拙い英語に耳を傾けてたくさん話しかけてくれる人々のやさしさに触れました。スーパーマーケットに買い物にいったとき、Jack という名の店員さんと仲良くなりました。もちろん初めて会ったのですが、こちらに短期留学に来ていることや Jack も日本に行ったことがあるという話も聞きました。このようなフレンドリーな雰囲気こそが、私がたくさんの人と話すことの出来た理由だと思います。

ウォルナットクリークで出会った友達の中に Jasmine という 17 歳の女の子がいます。Jasmine は医者を目指して勉強中ですが、元々はスペイン語を話していたそうです。しかし学校に通うにあたって、英語を習得したのだと言っていました。アメリカに住んでいる子はみんな英語が母国語だと勝手に思い込んでいたため、Jasmine の言葉に驚かされました。実際に彼女はとても英語が上手で、まさか後から勉強したとは思えないほどです。Jasmine とは今でも連絡を取っていて、会話を通して略語などを教わったりしています。このように連絡を取れる異国の友達が何人もできたのがうれしいですし、改めて英語に取り組む気持ちが強くなりました。

東京 2020 オリンピック・パラリンピックを来年に控え、たくさんの観戦客が東京にやってくると予測される今、海外の方とコミュニケーションをとる能力が重視されています。さらに日本らしいものも求められています。私もホストファミリーとの会話の

中で、日本や日本文化についてたくさん話をしました。そこで正しく知る大切さに気づきました。日本人である私たちが正しい日本文化を学んでいくことこそ、日本文化を知ってもらう第1歩であると感じました。そして私がウォルナットクリークで経験した出会いを、今度は私が1人でも多くの人に届けられたらいいなと思っています。

とてもよくしてくださった Tayler 家の4人さらに17匹の動物たち、campの友達、teen artのスタッフの皆さん、ウォルナットクリークでのすべての出会いに感謝したいと思います。



「ホストファミリーの紹介」

私は今回、Pickslay 家にホームステイをさせて頂きました。ホストファザーの、クリストファー、ホストマザーのチェルシー、ホストフレンドの 15 歳のアメリカと 11 歳のマックスの 4 人家族でした。また、犬、猫、子猫、蛇の 4 匹のペットがいました。ペットが多いこともあって家の中はわいわいした雰囲気でした。

初めての海外、ホームステイでとても緊張していましたが、ホストファミリーがフレンドリーに話しかけてくださったり、私がすぐに馴染めるようにカードゲームや犬の散歩に誘ったりして、気を使ってくくださったため、ホームステイを始めてすぐに馴染むことができ、Pickslay 家は私にとって安心できる場所になりました。

報告書「海外派遣に行つて」

私は中学生の頃から海外の生活や文化に興味があり、いつかアメリカに行つてみたいと思っていました。なので、この海外派遣のことを知ったとき、すぐに応募しようと決意しました。サンフランシスコに着いたときは、ずっと憧れていたアメリカの風景にとっても興奮したのを覚えています。

ホストファミリーは、私をいろんな所へ連れて行ってくれました。例えば、サンフランシスコの有名スポットを観光したり、事前のメールでホストファミリーがよく行くところに行きたいと言っていたので、ローラースケート場やロッククライミングができる「インディアンロック」という所に行ったりしました。また、平日にはマックでポテトを食べたり、フローズンドリンク屋にも連れて行ってくれたりして、アメリカの日常を体験することができました。

アメリカでの生活はとても楽しいものでしたが、少し後悔もあります。それは、自分の英語力が足りないせいで、話したいのになんと言っていないのかわからず、話せないときがあったことです。中学や高校では英語は得意な方でしたが実際に英語を使って生活してみると自分が思ったよりも英語ができないということに気がつきました。この経験を活かして日本に帰ってからは一生懸命英語の勉強に取り組みたいと思っています。またいつかアメリカに行き、ホストファミリーを訪れて、今よりも上達した英語で楽しい話をたくさんしたいです。

今回アメリカに行き、たくさんの人に出会い、初めての体験をたくさんすることができました。さらに日本に帰ってからも英語の勉強に励んだり、またアメリカを訪れる

ためにバイトを始めようと決意できたり、少し自分がアメリカに行く前よりも前向きになれていることが実感できて嬉しいです。アメリカで過ごした 10 日間はとても充実していて楽しくて、一生の思い出になりました。このような機会を与えてくださった北区の職員の方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。



「ホストファミリーの紹介」

私が今回泊まったお家は、2年前の海外派遣のときと同じ、ライ家でした。お父さんのコンラッド、お母さんのセリナ、私と同年のカリア、妹のマケナと、ゴールドデンレトリバーのクーパーがいます。カリアとは会うのは4回目、お父さんお母さんと妹とは3回目だったので緊張や不安は一切無く、早く会いたいという気持ちでいっぱいでした。みんな私のことを気にかけてくれて、最高に楽しい10日間を過ごせました。

お父さんお母さんは親切で、子供想いで素敵な方々です。カリアはフレンドリーで優しくて、沢山おしゃべりをしました。マケナは私の妹と同年で、すみっこぐらが好きで、元気でかわいかったです。家族全員テニスが好きで、みんなで試合を見に行ったりしました。クーパーは、10日の間、家族の中で私が1番なでなでしたので最後のほうは私のそばに来て撫でて欲しそうにしている可愛かったです。みんな、私が喋った雑な英語をわかってくれて、話しかけるときも分かりやすい英語を使ってくれました。ライ家でなかったらこんなに楽しいと思わなかったと思うほど気が合いました。ホストファミリーというよりは友達、家族と思っています。

報告書「忘れられない10日間」

私が今回の交流事業に参加しようと思ったきっかけは、2年前にウォルナットクリーク市に海外派遣で行ったときに、とても楽しかったからです。今回も、前回に負けなくらい楽しく、何物にも代えがたい経験でした。

10日間で一番良かったことは、ホストファミリーと過ごせたことです。ホストファミリーは私をたくさん“アメリカ(カリフォルニア)”らしい、面白いところに連れていってくれました。たとえばスタンフォード大学、ファーマーズマーケット、ジェリーベリーの工場やワッフルチキンが食べられるダイナー、ドライブインシアターなどです。特にドライブインシアターは、アメリカの映画の中でしか見たことがなかったので実際に行けてとても嬉しかったです。ファーマーズマーケットでは売り物のぶどうの房から一人一粒くらいなら、取って味見をできたので、楽しかったです。また、アメリカのレストランで出される料理は、とても量が多く、日本の2倍くらいあると感じたのですが、どれもこれも味がしっかりあってとても美味しかったです。ワッフルチキンはとても巨大で、フリスビーくらいあって、ホストファミリーにも「残していいよ。持ち帰れるから」と言ってもらったのですが、美味しすぎて完食できてしまいました。なにもかもが刺激的で、楽しい経験でした。何気なく家で過ごしている時もしゃべったり、ゲームで遊んだりして楽しく過ごせました。ホストファミリーが私の好みに合わせたところに連れて行ってくれたので、感謝の気持ちでいっぱいです。

アートのクラスでは、地元の同年代の子ともたくさん関わりを持って楽しかったです。アートの女性の先生がペットの鳩と鶏をクラスに連れてきていて、自由なアメリカという国の気風を感じました。

2 回目のホームステイでさらに深く、アメリカ人の習慣や考え方を知ることができたような気がします。本当に参加できて良かったです。でもアメリカ人だからこういうときはこうする、日本人はこういうことはしない、などと決めつけるのではなく、同じ人として、関わりあえることが一番だと思いました。もっと色々な国や地域に行って自然や沢山のの人たちと交流したいです。



「ホストファミリーの紹介」

今回のプロジェクトで私がお世話になったのはマイケル一家でした。私と同じ年のマイケルとお父さん、お母さん、姉のマリーの4人家族です。あと、犬のレイシーがいました。私は中学2年の時にもセブンヒルズスクールの事業に参加させていただいて、その時もマイケルの家にホームステイさせてくれました。そのため今回は2年振りの再会という形で私を迎えてくれました。マイケルは サッカー、バスケットボードなどスポーツが好きで、友達も多く外で遊ぶのが好きな活発な男の子です。また、疲れていた私に「飲み物いる？」とか、「お腹すいた？」など常に私のことを気にかけてくれる優しい男の子でもありました。お父さんもお母さんも私を家族同然のように接してくれて、とても居心地の良い家族でした。

報告書「私のもうひとつの家族」

先ほども述べたが、私は今回が2回目の渡米だった。中学2年生のとき、北区の海外派遣生として参加したとき日本に帰ってきて感じたことは、後悔だった。自分の気持ちを英語でうまく表現できない、あのとき、こういうことが言いたかったのに勇気が出ない、そんなことが多くの場面であった。それでも、私のホストファミリーは優しく温かく、私を楽しませてくれました。だから私はこのときからいつか必ずもう一度アメリカに行きリベンジがしたい、もう一度ホストファミリーに会ってたくさんお話をしたい、そう思っていた。だから私はこのプロジェクトに参加しようと思ったのである。実際行ってみても、ホストフレンドであるマイケルとはたくさんの思い出を共有でき、アメリカを全身で感じることもできた。とても幸せだった。

私はホストファミリーに本当に楽しませてくれた。アメリカの大リーグや、アメリカンフットボール、日本とは比べものにならないくらい大きいショッピングモール、おいしいお店にたくさん連れて行ってくれた。その中でも私が一番印象に残っていることは、スポーツ観戦だ。とにかく大きかった。スタジアムも選手もすべてが大きくて圧倒された。そして何より私が衝撃を受けたのがサポーターの人々である。まず、アメリカのサポーターは何かあるたびにリアクションをする。そのため、スタジアムは常に盛り上がっている。また、座席の前にいた知らない人とでも得点が入ると友達のようにハイタッチをしていた。これらは日本でも目にする光景なのかもしれない。しかし、この光景を日本で見るのは珍しいのではないかと私は思う。それに比べアメリカではこれが当たり前であり、コミュニケーションの一つなのだと思う。きっとそれは、アメリカの人は人種とか性別とか生きている環境とかは関係なく、すべての人が平等だという認識があるからだろう。だから、国籍も話す言語も環境も全く違う私を、ホストファミリーはおもてなししてくれたのだろう。

私はホストファミリーから直接は聞いていないけれど、思いやる心、すべての人に自分と同じ共通するものがある、だから、その人の良いところを見つける努力をしている人々と良い関係を築くこと、これらが大切なのだと教わった。私はホストファミリーに本当にお世話になった。だから、アメリカで経験したこと、学んだことを無駄にしないように強くたくましく生きていきたい。そして、いつの日かもう一回り成長をしてマイケル一家に会いたい。恩返しをしたい。

今回このプロジェクトに参加させていただいたこと、このプロジェクトに携わったすべての人、私に最高の日々を与えてくれたマイケルとその家族に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



この度はこのような貴重な機会をくださり、ありがとうございました。8月2日から8月12日までの10日間、カリフォルニア州ウォールナットクリークにて私はたくさんの方との違い、そして日本が取り入れた方がいいと思ったことを学ぶことができました。

「ホストファミリーの紹介」

私のホストファミリーは4人家族と1匹で、主に私たちの世話をしてくれた明るいお母さんの Cookie、毎日何かと話しかけてくれた優しいお父さんの John、水泳が得意でフレンドリーな17歳の Gus、ゲームが得意な14歳の Hans でした。そして、人見知りな犬の Kevin がいます。私はペットを飼ったことがなかったので Kevin が人見知りだと聞いてとても不安でしたが実際はフレンドリーでとても可愛らしかったです。

日本のお土産として家族それぞれに髪留めや筆ペン、忍者風のはさみ、扇子などを持っていきました。Hans が忍者風のはさみをとても喜んでくれて嬉しかったです。

ホストファミリーは家族仲が良く、兄弟の友達同士も仲良く行き来していました。ある日朝起きてリビングに行った時に汗だくの Cookie と Gus の友達の Mark がいたことは印象的でした。この時2人は山にサイクリングをしに行った後だったらしく、本当に仲が良いのだなと感じました。

Cookie は特に私たちに積極的に接してくれて、マニキュアを塗ってもらったり一緒に服を買いに行ったりもしました。

報告書「一層理解が深まった10日間」

アメリカの空港に着いたのはカリフォルニア時間の午前10時頃。サンフランシスコの空は曇っていました。アメリカは暑いと聞いていたのですが、実際は少し涼しく28℃でした。到着後すぐバスに乗りガイドさんと共にフィッシャーマンズワーフという観光スポットへ行きました。そこでお昼にスープがパンに入っている料理を食べました。

次の日、私たちはホストファミリーと対面しました。Cookie と Hans が私たちを日本語でようこそと書いてある紙とともに迎えてくれました。家に着くと、お昼用意するねと言われ、ターキー、レタス、チーズの入ったサンドイッチを作ってくれました。アメリカでよく食べられているサンドイッチだと説明してくれました。

アメリカに着いてから3日目、私、莉子先輩、Hans、と知り合い一家でホストファミリーとして日本人を受け入れていたAva、みのり、さくら先輩の6人でSanta Cruzという遊園地へ行きました。色々な乗り物に乗った後おやつに icee という日本でいうスムージーのようなものを飲みました。チェリー、ブルーベリー、そしてコーラの味があり、私はブルーベリー味を飲んだのですが、しばらく飲んでると舌の色が青く変わって驚きました。濃い青色に驚きましたがおいしかったです。

4日目からは写真のワークショップが始まりました。カメラについて一通り説明を受けた後、アメリカの子たちとグループを作って外に写真を撮りに行きました。植物園

に行ったり美術館でアンディーウォーホル展を見に行くなど、街の中心部に出かけることが多く楽しかったです。美術館に行くときに地下鉄を使って移動したのですが、駅と駅の間で海の下をくぐる場所があり耳が飛行機に乗ったみたいにキーンとなっていました。また、街中ではバスが通っていたのですが路面電車みたいにバスの上に電線が通っていて景色が新鮮に感じられました。

帰国が近づいた8日目、日本でたくさん練習したプレゼンを発表するFarewell partyが開催されました。ワークショップで撮った写真を飾ったり、風船なども作った後たくさんの方が集まってきて先生のスピーチが始まりました。トップバッターは私たちのプレゼンでした。とても緊張しましたが練習通りできて良かったです。その後、現地の子どもたちによるワークショップ成果発表がありスイカ割とピニャータというお菓子の詰まっているユニコーンの形をした箱を叩く遊びをしました。

9日目、この日は3日目に行ったときのHans以外のメンバーとAvaの妹、Avaのお母さんとの7人でサンフランシスコの中心地に行きました。港でアシカをみたり、人力車のような自転車で人を引っ張っていく乗り物に乗せてもらいました。帰国が間近に迫り、寂しくなりました。

この10日間で日本とアメリカの違いを実際の体験を通して感じる事ができました。これをもとに、英語が活用できるボランティアなどにも一層積極的に関わっていきたいと思いました。



「ホストファミリーの紹介」

今回私がお世話になったお宅には、4人と1匹がいました。ホストマザーの Cookie、ホストファザーの John、ホストフレンドの17歳の Gus と14歳の Hans、そして犬の Kevin。Cookie さんは最初から最後まで温かく、実の娘のように接して下さり常に気にかけてくださりました。近所の案内をしてくれたり、私の、なにか特別なことでなくアメリカの生活をしたいというリクエストにも答えてくださりました。

兄の Gus はとてもやさしく、そして明るい性格だった。おすすめのテレビショーを教えてください、色々と気にかけてくれた。

弟の Hans はとても優しく可愛らしかった。食事の時に「いただきます」「ごちそうさま」を言いたいと言いだしたり、日本をセブンヒルズで訪れていた時のことを笑顔で楽しそうに話してくれました。

犬の Kevin はすぐに懐いてくれ、外出から帰ってくるとしっぽを降って飛びついてきてくれた。また、ソファにいる時にひざの上に乗ってきたりと本当に可愛かった。皆が温かく、本当にホストファミリーに恵まれていたと思います。

報告書

8/2~8/12 までの 10 日間、アメリカに滞在しました。内 8 日間ホームステイをさせていただきました。

その中たくさんの人との出会い、交流があり、思ったことがあります。Hans の友人宅での BBQ に参加した際、その参加者のアメリカ人はほとんどがセブンヒルズの交流で日本を訪れたことのある人でした。中でも Hanna は、日本に来た時のことを写真を見せてくれながら笑顔で教えてくださって、「本当に日本が大好きなんだ！」と言ってくれました。他にもスポーツ用品店に行った時に、その店員さんが私が日本からきたと知ると、以前日本に住んでたと話してくれ、覚えている日本語を嬉しそうに話してくれました。このようなことがあって、私はこれから日本にやってくる人もこのように日本のことを大好きになって帰って欲しいと思いました。また、日本をこんなに好きでいてくれる人がいるのだと実感してとても嬉しかったです。

Hans の友人や、ワークショップの子など、出会った人と連絡先を交換して今でも連絡を続けています。別れ際に寂しく泣いてしまいましたが、それはそのくらいこの出会いが大切で一生物であるということだと思います。なので大切にしていきたいと思います。

他にもアメリカを訪れて日本との違いに気が付きました。アメリカのお店では「最近どう？」などといったフレンドリーな挨拶から始まることがほとんどで日本では無いものでした。挨拶の後に店員が自分の名前を言って、用事があれば声かけてねというやり取りも日本では無いもので新鮮でした。また、店を去る際に「良い一日を」という声かけられそれに対して「あなたもね」と返している様子がとても素敵で印象的でした。私はアメリカのこういう温かさが大好きです。

信号機も少し違って、日本では歩行者用の信号機は歩行者マークの横の四角いライトが減っていくことで表されますが、ウォルナットクリークでは秒数が表されていてそちらの方がわかりやすいと感じました。日本のものは感覚がどれくらいかわかりにくいですが、数は共通なので一目見てどれくらいかわかるので、そういった違いを見つけ、お互いに取り込むことで寄り良い環境が築かれていくのではないかと思います。

気づきばかりを書いてしまいましたが、色々なところにも連れて行ってもらい本当に楽しく有意義な時間でした。このような機会を下さりありがとうございました。



「ホストファミリーの紹介」

私は、Olejniczak さん夫婦の家に受け入れていただきました。また、ワークショップに参加するためにニューヨークから姪っ子さんも来てくれました。

お母さんの Maureen さんは、今回の交流事業のスーパーバイザーをしていたため、ホームステイ期間中毎日一緒に行動していました。お父さんの Keith さんは、とても親切な方でいつも私のことを気にかけてくれて、分からない事を質問すると丁寧に分かりやすく教えてくれました。朝食には、絶品のホットサンドを手作りしてくれました。姪っ子さんの Leia さんは、14歳で年齢が近かったので日本とアメリカの若者の流行など、色々な話をしました。犬も一匹飼っていました。

土日には、観光地に連れて行ってってくれて、平日も、共働きで忙しいはずなのに、私が行きたいと言った所や、食べてみたいと言った店に連れて行ってくれました。また、私が世界の政治や社会に興味があると伝えたときには、アメリカの政治について話をしてくださり、私からも日本の社会や問題を話す時間を作ってくれました。私は、今回が初めてのホームステイでしたが、このような家族に恵まれてとても貴重な時間を過ごすことができました。

報告書「新鮮な経験ができた11日間」

初日には、成田空港から飛行機に乗り、現地時間の午前11:00頃にサンフランシスコ空港に着きました。その後フィッシャーマンズ・ワーフに行き、昼ご飯にクラムチャウダーを食べて、ホテルに向かいました。ホテルにはバスケットボールのコートがあったので、何人かでバスケットをしました。時間は夜の7時くらいでしたが、夜とは思えないくらい明るく、日の長さに驚きました。2日目にはホストファミリーと対面し、ホームステイが始まりました。ファミリーと初めて過ごす土日は、とても充実していて、Oakland Zoo に行ったり、フェリーに乗ってサンフランシスコに行ったりしました。サンフランシスコでは、有名なケーブルカーに乗ることができ、さらには数人しかできない立ち乗りもできてとても嬉しかったです。4日目から8日目までは、ウォルナットクリーク市が主催している写真のワークショップに参加しました。ワークショップでは、アメリカの同年代の生徒とカメラの構造を学んだり、実際に一眼レフカメラで写真を撮って、それを編集しそれぞれの作品を作ったりしました。私は、ワークショップの初日にグループを組んだ、2人のアメリカの生徒とも共同で作品を作りました。ワークショップの期間中は、カメラや編集のための専門的な用語を使うことが多かったため、初めは難しいと感じることもありましたが、日が経つにつれ理解できることも増えていきました。ワークショップの最終日には、パーティーを行いました。普段日本ではパーティーをすることがないので、その豪華さに驚かされました。パーティーでは、私たち北区の生徒は北区についてのプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは少し緊張しましたが、日本で沢山練習した甲斐もあって、しっかりと発表できました。毎日、ワークショップが終わった後も、ファミリーで野球観戦に行ったり、

家で映画を見たり、ショッピングに行ったりなど、色々なことを経験できました。また、私がアメリカにステイしている期間と、私の兄がアメリカに留学している期間が重なっていたため、ホームステイ中に兄と会い、一緒にディナーをする機会も作ってくれました。ファミリーと過ごす最後の日には、Santa Cruz Beach Boardwalk というアトラクションとビーチが融合した遊園地に行きました。アメリカの遊園地というと、日本よりも怖いイメージがありましたが、実際に乗ってみると、どのアトラクションも思っていたより怖くなく、むしろ、とても楽しかったです。

私は今まで家族と旅行で海外に行くことはありましたが、親なしで、1週間以上も海外に行くのは初めてだったので毎日が新鮮で、楽しい思い出がたくさんできました。また、ワークショップや、プレゼンテーションを通して、より多くの人に日本や、北区の魅力を伝えることができ良かったです。実際に、私のファミリーは、「日本に行く時には絶対に北区に行く！」と言ってくれました。また、ネイティブと毎日会話してみて、自分の伝えたいことが上手く英語で伝えられなかったり、相手の言っていることが分からなかったりすることもあり、自分の英語はまだまだだと感じました。しかし、そのように感じたことで、これからもっと英語を勉強して、もう1度ウォルナットクリークを訪れたいと強く思うようになりました。11日間毎日が、刺激的で新鮮なことばかりで、この海外交流団に参加して本当に良かったと思います。最後に、今回の海外交流事業に関わり、サポートしてくださったすべての方々に感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。



「ホストファミリーの紹介」

私は今回、さくらさんと Satterfield さんのお宅にお世話になりました。お父さん、お母さん、ホストフレンドの Ava、弟の Jack、妹の Gemma、Olive の六人家族です。

お父さんは朝食を作ってくれたり、バーベキューでお肉を焼いてくれたり料理上手な人でした。お母さんは、毎日送迎をしてくれたり私たちが楽しく過ごせるようにと色々な所へ連れて行ってくれたりしました。四人の子どもたちのそれぞれの送迎や、家事などで忙しそうでしたが、とても元気で優しい人でした。長女の Ava は私よりも年下ですが、とてもしっかりしていて弟や妹の面倒をよくみていました。弟の Jack はテニスが上手で、良い選手だそうです。妹の Gemma は水泳が得意です。とても優しい子でいつも気遣ってくれました。末っ子の Olive はとても元気がよくて人懐っこい子でした。家中を走り回ったり、大きな声で笑ったりいつも楽しそうでした。みんなを笑顔にするとても可愛らしい子でした。

報告書「北区青少年海外交流団に参加して」

私は中学 2 年生の時に、北区の海外派遣生としてウォルナットクリーク市にホームステイしました。今回は二度目のホームステイでした。

前回、会話で苦労し携帯電話で翻訳アプリを使って会話することが多くありました。そのため自分から積極的に話しかけることができませんでした。そのことがとても悔しくて心残りでした。だから今回は積極的にコミュニケーションを取り、自分の力で話すことが私の目標でした。初めはあまり自分から話しかけることができませんでした。徐々に打ち解け会話が増えていきました。好きな歌手やスポーツ選手の話などをしました。相手が言ったことを一度で全て聞き取ることはまだ難しかったですが、翻訳アプリを使うことはほとんどありませんでした。

放課後や休日は、サンフランシスコや遊園地に連れて行ってくれました。色々なお店でショッピングをしたり、食事をしたりとても楽しかったです。くねくねと曲がったロンバートストリートを見たりケーブルカーに乗ったりしました。アメリカのケーブルカーはドアや窓がなく、座席にシートベルトもありませんでした。急な坂道が多いので、上り下りがとても怖かったですが、貴重な体験をすることができました。

ワークショップでは、ビジュアルアートを学びました。私は絵を描くことが苦手なので、初めは嫌だなと思っていたのですが、参加してみるととても楽しかったです。絵の描き方を間違えてしまっても、先生は笑顔で教えてくれました。そして私たちの絵を「Cool! Cool! Cool!」「Cute!」とたくさん褒めてくれました。日本が大好きな先生で、日本に来た時の話や好きなキャラクターの話をしてくれました。日本語を教えたらとても喜んでくれて、一生懸命覚えてくれました。ワークショップを通じて絵を描くことの楽しさを知り、絵を描くことが前より好きになりました。

前回のホストフレンドの Aneesha にも会うことができました。彼女やお父さんが前よりも英語が上手になっていると言ってくれて嬉しかったです。思い出の話をしたり、写真を撮ったりとても楽しい時間を過ごしました。

Ava の家族も、Aneesha の家族もまたいつでも家に来ていいと言ってくれました。私はまたアメリカや日本でホストファミリーに会いたいです。再会した時に、たくさん話せるように、これからも英語の勉強を頑張ります。



「ホストファミリーの紹介」

ホストマザー Rosie

ホストファザー Ben

ホストフレンド Amanda

ホストフレンドの兄 Benny

ホストフレンドの姉 Ashley

今回、私を受け入れてくださった家族はロペス家です。

お父さん、お母さん、長男のベニー、長女のアシェリー、ホストフレンドのアマンダの4人と犬のセラムです。

お父さんは仕事で忙しく2日間しか会ってないのですが、優しく話しかけてくれました。また、ベニーとアシェリーは一人暮らしをしていた為会うことはできませんでした。なので主にお母さんとアマンダと犬のセラムと過ごしました。

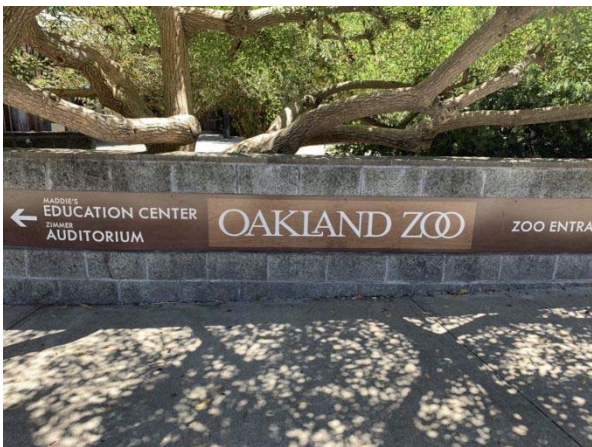
報告書「言葉の壁」

ホストファミリーは初の海外ということもあり緊張していた私に優しく温かく接して下さって、とても楽しいホームステイになりました。TV ゲームで遊ぶ、料理をするなど、沢山の楽しいことを一緒にさせていただきましたが、中でも楽しかったのはサンフランシスコ観光です。フェリーに乗ってサンフランシスコに行きフィッシャーマンズワーフやギラデリチョコレートなどの沢山のお店を周り帰りはケーブルカーに乗りました。何から何まで日本にはない新鮮なことばかりでとても充実した1日になりました。また私が日本からのお土産で浴衣をプレゼントしたのですがとても喜んでくれたのが印象に残っています。日本文化を少しでも伝える事ができて良かったです。

今回の派遣に参加させていただいた事で、やはり自分の英語力不足を痛感しました。学校で英語は得意科目でしたが、生の現地での会話は自分の伝えたい事が上手く表せず翻訳を使ってしまったり、意思がなかなか伝わらない事に何度も悔しい思いをしました。これからはもっと頑張っ



2020年オリンピックの時にホストファミリーに日本に来てもらい私が英語で案内を
したいと思いました。



「ホストファミリーの紹介」

私はホームステイで、妹が中学 2 年生の時に参加した海外派遣で受け入れていただいたホストファミリーに受け入れていただきました。

ホストファミリーは、Dad の Dave、Mom の Anabel、14 歳の Ava、12 歳の Juck、10 歳の Gemma、3 歳の Olive の 6 人家族でした。

Dave はいつも笑顔で子供たちにもとても優しいお父さんです。Annabelle は私のことを本当の娘のように接してくれた優しいお母さんで、私の家族の事や日本の事など様々な話を持ち出してくれ話しが盛り上がりました。Ava は冬以来の 2 度目の再会で、会った瞬間にすぐに色々話せる一緒にいて楽しい女の子で、そして兄弟想いのしっかり者の姉でもあります。Jack はテニス、Gemma は水泳で優秀な成績を収めたスポーツ万能の子であり、そして 3 歳の妹をお世話する頼りになる子でありました。Olive は小さくてとてもかわいくて、朝 7 時過ぎになると私の部屋に来て長い時間一緒に遊んでいました。この家族は兄弟の仲がとても良く明るくて、一緒に過ごしていてとても楽しかったです。そして私の事を大切に気遣ってくれて、たくさんの経験をさせてくれました。

報告書「新しいもう 1 つの家族」

私にとって今回が初めての海外でした。去年の冬に、今回お世話になったホストファミリーの Ava が私の家で一緒に過ごした時に、互いに一生懸命に思いを伝え合う事の素晴らしさを学びました。それをきっかけに、次は自分が少数派となる環境で英語を使っの生活を体験してみたいと強く思うようになり参加しました。

そして今回また Ava と会えるのがとても嬉しかったです。対面の日、会えた瞬間に鳥肌が立ちました。家族がウェルカムボードを持って笑顔で受け入れてくれた事に、家族の温かさを感じました。今もその時の喜びやみんなの笑顔が忘れられません。

ホストファミリーは色々な所に連れて行ってくれました。道を歩くだけで日本とは景色が全く違って、自分が今アメリカにいるという事を少しずつ実感していきました。レジで店員さんと話す時は、始めのうちは緊張しましたが回数を重ねる度に慣れてきました。最初、早い英語を聞き取る事に精一杯ですぐに返事をする事は難しかったですが、少しずつ自分のリスニング力も上がり、会話も続ける事ができ、自分に自信を持てるようにもなりました。今思うと、初日から恥ずかしがらずに完璧ではなくても積極的に会話をしていけば良かったです。

私は今回アメリカでの生活を経験して、日本にはないアメリカの良さを発見しました。それは、初対面の人ともすぐに打ち解けやすいという事です。握手をしながら自己紹介をする事は日本ではあまり見られないので、この風習が日本にもあれば良いと思いました。特に嬉しかったのは、Ava の友達と打ち解けあい、色々な事について話せた事です。握手をするかしないかは互いの距離感を感じる上で、意外にも大きな違いがあるように私は思いました。

ワークショップではアートクラスに参加しました。アメリカ人生徒と交流しながら作品を製作する時間もあり、意見を共有しながら作品を作るのは、母国語が違うからこそ、よりとても楽しい時間になったとも思います。また、絵をきっかけに会話が生まれたのも良かったです。

10 日間とはとてもなくあっという間に過ぎ、それと同時に楽しい思い出も次々と増えていきました。たくさん思い出がありますが、1 番の思い出はやはりホストファミリーと過ごした日々です。寂しいと思ったことは1 度もなかったです。それくらいにホストファミリーには優しくしてもらいました。感謝の思いしかありません。この家族が私のホストファミリーで本当に良かったです。

今回のアメリカでの経験を通して、人と人を結ぶのは笑顔と想いなのだと確信しました。高校で習うような完璧な英文法を使えなくても、伝えたいという強い思いがあればコミュニケーションを取ることができました。海外交流というものがこんなにも素晴らしいものなのかという気持ちで今はいっぱいです。これから日本でもっと英語や異文化を学び、国境を超えた活躍ができるよう頑張りたいです。



「ホストファミリーの紹介」

今回私は 60 歳のご夫婦のお宅にホームステイをさせていただきました。Sanregret 家は 4 人家族ですが、実家から 1 時間と少し離れたサクラメントに住んでいる 26 歳の息子の Mitchell とボストンの大学で寮生活をしている 23 歳の娘の Mollie には残念ながら会えませんでした。

ホストマザーの Yolanda は笑顔が素敵で、明るくユーモアたっぷりのお母さんでした。茶目っ気があってかわいらしい方でしたが、とても思慮深く、いつも私の言いたいことを汲み取って会話をリードしてくれました。

ホストファザーの Matthew は人生経験が豊富で博識なお父さんで、よくジョークを言って笑わせてくれました。ギターにバスケットにゴルフに料理、ゲームまで上手で、できないことが無いんじゃないかと思うくらいに何でもできる人で驚きました。二人ともとてもお元気で若々しく、アクティブな生活を送っていました。

そしてもうひとりの家族が猫の Luna です。書類のペットの欄に “one very fat cat” と書いてあった通りの大きな猫ちゃんでした。とても優しいご家庭に暖かく迎え入れてもらえ、「後悔の無い 8 日間」を過ごせました。

報告書「Sanregret の 8 日間」

私が北区立中学校海外派遣交流でできなかったことを 3 年経った今、どれだけできるようになったか確かめたいという思いがこの北区青少年海外交流団の事業に応募した最も大きな理由の一つでした。

前回できなかったことは

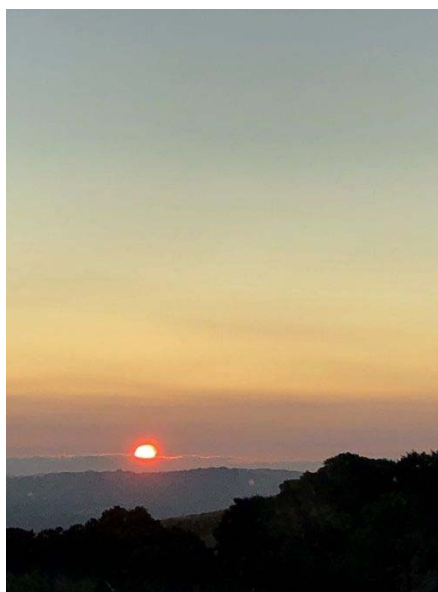
- ①自分の思ったことを満足に伝えきること
 - ②発音やイントネーションを意識すること
 - ③ネイティブ同士の会話を聞き取ること
- の 3 つでした。

まず 1 つ目は半分くらいの出来でした。ホストファミリーと積極的に会話のやりとりをすることはできましたが、深い話をするには語彙が不十分で、二人の助けも借りながらやっと考えを伝えられるようでした。踏み込んだ話をするにはもっと豊富な語彙力を身につける必要があると痛感しました。

2 つ目に関してもまだ足りないと感じるところがありました。イントネーションについては概ね英語らしいものに近づいてきたように思いますが、発音は一度で伝わらないことがあり、中学の頃よりはだいぶ良くなっているとはいえまだまだだということに気づきました。実際自分の意見を言うときそこまで意識をしなくてもきれいな発音で話せるように、日頃からきれいな発音を心がけていきます。ホストファミリーの英語がわかりやすかったこともあるのかネイティブ同士の会話を聞き取ることができました。リスニング力は確実についてきていると感じ、今まで積み重ねてきたものが自分の力になっているという実感が湧きました。

前回より楽しめたと思う面は、自分の英語力の向上からだと思いました。「わかる」「伝わる」といった確かな実感と心のゆとりからホームステイがより楽しくなったのだと思います。ホストファミリーから街のことや市のこと、家族のことなど沢山のことを教えてもらいました。ワークショップの帰りに街へ出て、建物や像などを実際に見せてもらいながらそれらについての説明をしてもらえることもありました。とても興味深く面白い話を聞いて、ウォルナットクリークをもっと知ることができて、嬉しかったです。そして北区の話もできたことで、私の住んでいる街も知ってもらえて更に嬉しかったです。また、現地の名物の食べ物などたくさんの新しい挑戦をすることができ、映画鑑賞や野球観戦等々書ききれないほどのさまざまな体験をさせてもらえました。お迎えの帰りに職場に連れて行ってもらったり、ディアブロ山から沈む夕日を見るために車を走らせてくれたりした日もありました。一緒に料理を作ったのも良い思い出です。素敵なお夫婦とかけがえのない素晴らしい時間を一緒に過ごすことができました。

この経験は、受け入れてくれた Sanregret 家、サポートしてくれた家族なくしてはできなかったものであり、また、このような貴重な機会を二度も与えてくださった北区の海外派遣事業に大変感謝しています。本当にありがとうございました。そして、この先の北区とウォルナットクリーク市の交流の発展を心より願っています。



令和元年度 北区青少年交流団
ウォルナットクリーク市派遣報告書

発行日 令和元年 10月
編集発行 北区総務部総務課
〒114-8508
東京都北区王子本町1-15-22
Tel.03(3908)9308